

# スマートプラチナ社会推進会議(第1回及び第2回) における主な意見

## 基本的視点～戦略部会に期待すること～

- 成功モデル構築のためには、リーダーシップの存在や、取組の基盤となる成熟したコミュニティの存在が必要不可欠であり、その間の積み上げが重要。単なるICTの展開だけでは不十分。
- スマートプラチナ社会の推進事例には、企業・大学・医療機関等、サービス供給者サイド、ネットワーク形成のプロセスが重要であり、課題のある部分、その課題を明確にしていくことが、今後の政策の足がかりとなる。
- スマートプラチナ社会の実現のためには、まず、健康寿命を延伸する健康・自立・社会参加の視点から議論すべきではないか。その上で医療・介護の視点から議論すべきではないか。
- 今後、特に都市部で急速に進む高齢化、それに伴う自治体の負担増大は、全国の自治体にとって差し迫った重要な課題。民間サービス等を活用した新たな産業分野の創出といった観点が必要ではないか。
- 真に経済循環可能なビジネスモデルやインセンティブスキームの構築が必要ではないか。
- 構想会議で提示されたロードマップの具体化(2020年に向けていつどこで誰が何をやるべきか等)が必要ではないか。

# スマートプラチナ社会推進会議(第1回及び第2回) における主な意見

## 主な検討項目

### ①スマートプラチナ社会実現のための成功モデルの展開方策

#### <ビジョン I [健康・医療・介護・ライフサポート] >

- アクティブシニア、虚弱化高齢者、在宅医療被提供者といった高齢者の段階に応じた目標設定、発展領域の設定が重要ではないか。
- 医療・介護・健康分野でのICT利用による産業振興は、法制度、社会制度、インセンティブ、標準化、あるいは相互接続性等、阻害要因がまだ多いのではないか(遠隔医療における診療報酬、医療データの二次利用等)。
- 街づくりでの様々な先行事例(柏市、豊田市、三鷹市)があり、この成果・横展開が必要ではないか。
- 医療資源・介護資源の不足を補うICTを活用した新たなシステム・サービスが必要ではないか。
- 高齢者が生活の中で現実的に不安を感じる、買い物、外出、通院、緊急時へのサポートにICTを活用することが必要ではないか。
- 可能な限り既存システム(レセコン)を利用した「ミニマルセット」で参照モデルとすることが可能ではないか。
- 人間関係が希薄で、地域のつながりが必ずしも強くない都市部で、健康増進の取組をどう進め、ソーシャルキャピタルを育成するかが今後の課題。

# スマートプラチナ社会推進会議(第1回及び第2回) における主な意見

## 主な検討項目

### ①スマートプラチナ社会実現のための成功モデルの展開方策

#### <ビジョンII [リテラシー・ワークライフバランス・ロボット] >

- 欧米における高齢者向けICTの研究開発では、リハビリや日常生活のサポートのためのICTが主であって、高齢者が健康で働き続けられるためのICTという発想が弱い。この点、日本モデルが構築できれば、世界をリードできる可能性が大きい。
- 持続可能な活力ある社会の実現には、女性・高齢者の参加、多様化する就労ニーズへの対応、柔軟な就労環境が必要であり、そのためにはテレワークを導入できる住環境、企業への採用の働きかけが必要ではないか。
- 高齢者のICTスキルの習得に向けて、遠隔講習や教育コンテンツをいかに活用するかが重要ではないか。
- ロボット(特に認知症等の支援ロボット)は今後産業化が見込まれる有望株。ただ、産業化には様々なハードル(ガイドライン、コスト等)があり、これらを克服することが必要ではないか。

# スマートプラチナ社会推進会議(第1回及び第2回) における主な意見

## 主な検討項目

### ②ニュースマートプラチナ社会実現のためのICTイノベーション創出

- スマートプラチナ社会の実現のためには、収集・蓄積した膨大なデータをシームレスに活用することが必要ではないか。
- 都市部の住宅領域のICT化、例えば、住宅内部でのセンサー＋自動モニタリングによって安心の提供などが可能ではないか。
- 「知的な機械」の時代が到来しつつあり、コンピュータの認識・記憶・理解・判断が人を凌駕しつつある。こうした技術の活用による商品認識、料理認識等新たなサービスやテレプレゼンスによる高い臨場感が可能となってきている。
- ロボット(特に認知症等の支援ロボット)は今後産業化が見込まれる有望株。ただ、産業化には様々なハードル(ガイドライン、コスト等)があり、これらを克服することが必要ではないか。【再掲】

### ③スマートプラチナ社会の実現による新産業創出とグローバル展開方策

- グローバル展開にあたっては、ICT機器やサービスだけでなく、人的協力や諸制度等と一体化したサービスインフラとして展開していくことが必要ではないか。
- 日本に続いてアジア諸国等で高齢化が急増。中国の都市部(例:上海)では在宅介護のニーズが高まりつつあり、「ICT」＋「ものづくり」＋「医療・介護社会システム」をパッケージ化した国際競争力のある戦略プロダクトができるのではないか。